

千林商店街

大阪北東部に生まれた千林商店街

北河内地方に接する東成郡北東部の古市地区で、京街道と野崎街道の交差したところが古くから賑わっていたが、明治43年(1910)に京阪電車が開通したことにより、明治45年頃に北河内地方の生活必需品などの商品を扱う店が多くなり、千林商店街として位置付けられた。

都市計画と道路整備による商店の発達

大正後期から昭和初期にかけて、大阪市の都市計画により国道1号の整備と、市電の守口までの延長、京阪電車の軌道移設などにより古市地区の道路が整備され、現在の千林商店街が形成された。更に今市商店街、大宮商店街、そして森小路商店街の連携により、集客力の大きい商店街へと発展した。

隆盛期を迎えた千林

戦後、戦災を免れた千林商店街は商業活動の再開が早く、娯楽施設(映画館、ゲーム館)が乱立して賑わった。商店では「品物の豊富さ」と「安さ」で、更に全天候型のアーケードをいち早く設けるなどで人気を得て、京阪沿線や旭区外からの買い物客を引き寄せる魅力と吸引力を発揮した。この頃に日本で初めて「主婦の店ダイエー」の1号店が誕生し、より商店街を活気付けた。

専門大型店が参入した千林商店街

レジャーの多様化とテレビの普及にともない映画館が衰退すると、これに変わってスーパーやパチンコ店の進出し、大型店と小売店が共存共栄する商店街となった。

その後、量販店の流通の変化で大型店が撤収し、「商品の豊富さ」と「安さ」の商店街として活発に発展し、現在に至っている。



図■旧街道の位置



写真■昭和13年頃の千林商店街

写真提供：(財)大阪市都市工学情報センター

千林商店街のあゆみ

1. 千林商店街の萌芽期【明治18年(1885)～大正13年(1924)】

- ① 淀川の改修と京阪電鉄の開通(明治43年(1910))
- ② 千林地区に森小路駅の設置(明治44年(1911))
- ③ 公設市場の開設(大正9年(1920))
- ④ 織布関連工場と人口の増加

2. 千林商店街の形成期【大正14年(1925)～昭和10年(1935)】

- ① 大阪市の都市計画と着工
 - イ. 国道1号とそれに関する道路と住宅地の完成
 - ロ. 市電の延長と京阪電鉄の軌道移設(昭和6年(1931))
 - ハ. 運河の着工
- 二. 公園の新設(城北、新森公園)
- ② 京街道、国道1号につながる商店街との連携
今市商店街、大宮商店街、森小路商店街など

3. 千林商店街の発達期【昭和11年(1936)～昭和20年(1945)8月】

- ① 商店街の幅員の拡張
- ② 旭区行政、商業の中心が国道1号に集中
- ③ 商店街における組織団体の発足
- ④ 運河の完成と工場の増加
- ⑤ 私設市場の登場
- ⑥ 第二次大戦中の物資統制による商業不安

4. 第二次大戦後の復興と千林商店街の隆盛

- ① 公設市場が再開(森小路)【昭和20年(1945)9月～昭和40年(1965)】
- ② 千林森小路商店街組合の発足
- ③ 戦災にあった他地区からの小売業者の転入
- ④ 鈴蘭灯、ネオンの復活
- ⑤ アーケードの完成(昭和33年(1958))
- ⑥ 衣料品店の増加
- ⑦ 主婦の店ダイエーの出店(昭和32年(1957))
- ⑧ 娯楽施設の増加と買い物の運動
- ⑨ 映画館の衰退とスーパーの乱立

5. スーパーと共存共栄を目指した商店街の活性化

- ① アーケードの新設と架け替え
 - 第1回 新設 天幕式 ■写真①
 - 第2回 架け替え 電動ルーバー式 ■写真②
 - 第3回 架け替え 電動ドーム型 ■写真③
 - 第4回 架け替え ドーム型 ■写真④
- ② テラゾー舗装工事
- ③ 森小路公設市場と千林市場をくらしエール館として新発足

6. 千林商店街におけるスーパーの動向

- | | |
|------|-------------------------|
| ダイエー | 昭和32年(1957)～昭和59年(1984) |
| イズミヤ | 昭和36年(1961)～昭和45年(1970) |
| ニチイ | 昭和38年(1963)～平成14年(2002) |
| 長崎屋 | 昭和42年(1967)～昭和60年(1985) |
| トボス | 昭和59年(1984)～平成17年(2005) |



写真①■初代のアーケード
(昭和30年代中頃の千林商店街)



写真②■2代目アーケード
(昭和56年(1981)の千林商店街)



写真③■3代目アーケード
(昭和59年(1984)の千林商店街)



写真④■4代目アーケード
(平成19年(2007)の千林商店街)